

医療用機器の製造も

培つた技術を他分野に

腕時計の組み立てに始まり、手作業の省力化で培つた



技術を他分野に生かしている。大館市の比内時計工業・比内工場(林厚社長、本社・東京)は全体の2割程度となつた「変化が早いグローバルな時代だからこそ、顧客の要求に応える」と確かな製品づくりに日々取り組んでいる。

腕時計製造業として創業した林時計工作所(現ハヤシレピック)の子会社として1974年に設立。翌年に独立助照明などの設計・製造を手

し、腕時計の組み立てを始める。近年、腕時計の組み立ては全体の2割程度となつたが、相手先ブランドの製品製造を手掛けている。

最初の自社製品が電動ドライバー。現在は顕微鏡の照明装置、部品を整列させる自動供給装置「パーツフィーダー」、製品の検査に使われる補助照明などの設計・製造を行っている。私たちの物づくりは分かりにくいだろうが、私たちはさまざまな製品をつくっている。私たちの物づくりに共感できる人はきてほしい」と話した。

掛けており、高い技術力で各企業から信頼を得ている。

2002年には医療機器の

製造許可を取得。小さくて精度の高い温度管理が必要な医

療用冷蔵庫に使われている「ペルチエ式クーラー」を製

造・販売。さらに、小さい部品をいかに組み上げるかという得意分野を広げられないか、常に模索している。

畠山享工場長は「皆さんに

比内時計工業(大館市)

ベルチエ式クーラーの製造現場(大館市の比内時計工業・比内工場)